

雌雄鑑別について

柴田 良 2008年～2012年 浦河診療所勤務
2012年～ 門別診療所勤務

門別診療所の柴田と申します。皆様におかれましては牧草やセリの準備等でお忙しくされていることと思いますが、少々お付き合い下さい。シーズン中に妊娠鑑定をしていると「雄か雌か分かるのか?」と聞かれることが多くありました。そこで今回は雌雄鑑別について書かせていただきます。

① なぜ雌雄鑑別が必要か?

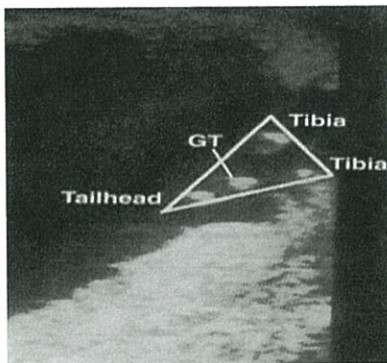
雌雄鑑別は、日本ではあまり馴染みの無い技術かもしれませんが、海外では牧場のマネジメントに役立つとされ、広く普及しています。例えば、繁殖牝馬を売却するかどうかの指標として、来年のセリでの収支見込みや交配種馬の決定など、性別を事前にかかる牧場のマネジメントに有利に働くようです。

② 雌雄鑑別の方法、適期

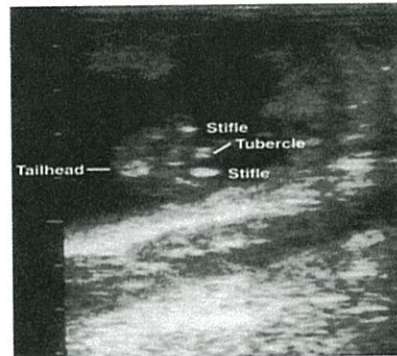
どちらの性別においても約50日～55日齢で後肢の腹側正中線上に、生殖器のもとになる生殖結節が発育してきます。そして約54日～55日齢で生殖結節は雄であれば臍の方向へ、雌であれば肛門方向への移動を始めます。約60日～70日齢になると生殖結節の移動が完了し、その生殖結節の位置をエコーで確認する事により、雄か雌かの鑑別ができます。雄なら臍付近に、雌なら肛門付近に生殖結節が見えるというわけです[写真1.2]。約80日～90日齢になると生殖結節は生殖器へと発育を始め、約110日～120日齢になると雄は陰茎や包皮、雌であれば陰核や乳腺などが十分発達します。これらをエコーで確認することでも雄か雌かの鑑別が可能です[写真3.4]。注意しなければならない事は、上記の時期をそれと、生殖結節や生殖器の発育状況、胎児の大きさ、位置などの理由で雌雄鑑別が難しくなるということです。雌雄鑑別は60日～70日、110日～120日齢で行うことが推奨されています。

③ 最後に

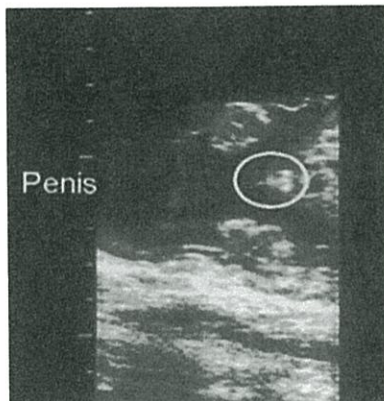
雌雄鑑別には多くの経験や技術を要するので、まだまだ私も勉強中ですが、将来的には雌雄鑑別を一つのサービスとして提供できるように技術の習得に努めたいと思います。



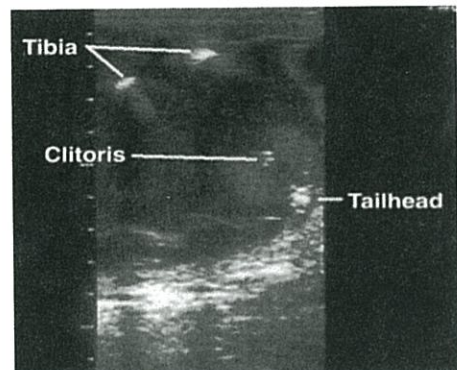
[写真1] 60日齢～70日齢の雌の生殖結節(GT)
生殖結節は脛骨(Tibia)と尾根(Tailhead)の断面が
形成する三角形内に描出される



[写真2] 60日齢～70日齢の雄の生殖結節(Tubercle)
生殖結節は大腿骨(Stifle)の断面が結ぶ線上に描出される



[写真3] 110日齢～120日齢の雄 陰茎(Penis)が描出される



[写真4] 110日齢～120日齢の雌 陰核(Clitoris)が描出される